

# 川崎市議会議員 いわくまちひろ 実用的な防災読本を

川崎市議会議員 いわくまちひろ  
連載No.82



川崎市議会議員  
いわくまちひろ



東京都HPより参照

4月14日・16日に、熊本県・大分県などで最大震度7の大地震が発生しました。40名以上の方がお亡くなりになりました。心からお悔やみ申し上げます。

私事で恐縮ですが、高校時代を熊本市で過ごしたこともあり、私自身他人事には思えません。

17日(日)より、**震災義援金活動**を街頭にて開始しました。すでに多くの市民の皆様にご協力頂いております

こと心より感謝申し上げます。引き続き、ご支援をお願いするごにも、東日本大震災の時と同様、皆様方から頂いた義援金の行き先は、数か月後に必ずご報告申し上げます。

川崎市では、昨年度、「川崎市国土強靱化地域計画」の策定、「川崎市地域防災計画（震災対策編、風水害対策編）」の修正、また、新たな「川崎市地震防災戦略」の策定を行いました。計画策定の目的は、防災・減災対策の推進です。しかし、私は、所属

していた総務委員会にて「市民の皆さんに本計画を理解して貰うことは困難なのではないか？」と質疑しました。その理由については、川崎市が策定したものは、電話帳数冊分の厚さがあり、議員や行政職員へのマニュアルとしては理解するものの、市民の皆さんへの周知や理解については、実用性が伴うものなのか、という疑義が生じたからです。

一方、東京都では、ユニークな本を都民へ配布しています。「東京防災」（画像参照）という本です。イラストで分かりやすく説明するとともに、日常備蓄や耐震化チェック項目を設けるなど、コンパクトでより実用的な内容となっています。

机上の計画やマニュアル策定だけでなく、これからは、市民の皆さんにより分かりやすい視覚（ビジュアル）に訴えたコンパクトな防災読本を作っても良いのではないのでしょうか。